



# 佐世保市立歌浦小学校

所在地 佐世保市鹿町町下歌ヶ浦791番地11

校長 泉 清一

児童数 81名 学級数 9学級 (R6.5.1現在)

学校教育目標 … やさしい心 夢かがやく 歌小の子どもの育成

目指す子ども像 … 「つよく」「かしこく」「あたたかく」

今年度テーマ … 「愛」のある歌浦小



- 1 学力向上・確かな学力を育てる教育の推進
- 2 心育て・豊かな心を育てる教育の推進
- 3 体力向上・たくましい体をつくる教育の推進
- 4 信頼される学校づくりの推進

## 1 目的

- (1) 学社融合、異校種交流、中学校区学校間交流の充実をめざした体験学習と交流学習を推進させることで、確かな学力と児童のコミュニケーション能力の育成を目指し、豊かな心を育むとともに、ふるさと・歌浦への愛情を深める。
- (2) 児童の学習状況を把握し、学び合う学級づくりと、国語科及び算数科の授業改善を展開し学力向上をめざす。また、サポートティーチャーによる授業支援を行うことにより、学習の理解や活動に遅れの見られる児童に対応し、基礎学力の定着を図る。さらに毎週金曜日の始業前に実施するチャレンジタイム算数においても、チャレンジティーチャーによる学習支援を行い、学力向上を目指す。
- (3) 地域や保護者との連携により、ボランティア活動の充実と教育環境の充実を目指す。(登校時の見守り・あいさつ運動、本の読み語り活動)

## 2 主な実践内容

### (1) 全校での主な実践

#### ①地域ボランティアによる学力向上

1・2年生の国語・算数の学習を対象に、地域サポートティーチャーによる学習支援を実施した。

また、基礎学力定着に向けて、毎週金曜日の「算数チャレンジタイム」を、始業前に全学年15分間実施した。この時間には、担任とチャレンジサポーター(丸付け先生)の2人体制で学習支援を行った。



算数チャレンジタイム



読み語りボランティア



民生委員あいさつ運動

## ②読書活動の充実

毎週月曜日の朝に、図書ボランティア「アリスの会」による本の読み語りを行った。絵本や紙芝居を使った読み語りは、読書への興味関心を高める活動の1つとなっている。

## ③朝の登校見守り

朝の登校時には、ボランティアとして地域の方や校長も通学路に立ち、安全見守りとあいさつ運動を行った。今年度は、特に「ワンストップあいさつ」に心がけた。また、毎月12日には民生委員による校門でのあいさつ運動も実施した。

## ④人権・平和教育での意識の高まり

平和学習の一環として、「劇団・楽園天国」の皆さんに佐世保空襲に関わる朗読劇をしていただいた。また、佐世保市人権教育研究会の先生方を招き、各学級で人権学習を進めた。子どもたちの人権や平和に対する意識が年間を通して高まった。



## (2) 各学年の実践

### ①保・幼・小連携

1年生が卒園した近隣幼稚園に「里帰り訪問」を行い、1年生の入学後の成長ぶりを披露する活動を行った。

また、次年度入学予定の近隣の保育園や幼稚園の園児を招いて給食試食会や1・5年生との体験入学や交流会を実施し、新入生に小学校の様子を感じてもらい、入学への意欲を高めた。

### ②2年生の町探検

地域のお店や駐在所、郵便局にご協力いただき、町の様子や仕事などに関心をもった。

### ③3年生のスイートコーン栽培

地域の畑で、スイートコーンの苗植えから収穫までの一連の栽培活動を行った。収穫後は、日頃お世話になっている全校児童や先生方にも、たくさんのスイートコーンを配り、多くの人たちと収穫の喜びを分かち合うことができた。

### ④4年生の福祉学習

4年生が社会福祉協議会と連携して、年間を通して福祉についての講義や疑似体験を行い、福祉についての理解を深め、お年寄りの方や障がい者の気持ちを学ぶことが出来た。ポッチャ体験を行い、障がい者のスポーツに親しんだり、地域の福祉施設を訪ね、地域の方々と交流をもったりするなど、体験的な活動で自分たちに何ができるかという意欲も高まった。



園児との交流



スイートコーンの栽培



車いす体験

#### ⑤ 4年生の門松作り

地域の方とともに門松作りを行った。門松の由縁や知識を学びながら、固定のための砂を運んだり、自分たちで自由にアレンジしながら花をさしたりし、オリジナルの門松を完成させた。

#### ⑥ 5年生の水産教室

水産センターのしくみや佐世保の海の生き物、環境について学び、カサゴの放流を行った。地域の環境に対する関心が高まった。



カサゴの放流

#### ⑦ 6年生の環境学習

地球温暖化を中心に学び、環境を守るために自分たちができることはないか考えることができた。

### (3) 学力向上のための教員研修の充実



本年度（3年目）も、長崎大学附属小より外部講師を招聘して、国語の学習を中心に学力向上のための授業改善研修を行った。国語の物語文を例に、物語を読み込んでいくための視点や、読み込むことで子どもたちが自ら「問い」を立て、単元の学習を追究する学びについて研修を深め、それぞれの学級の実践に生かすことができた。

## 3 成果

- それぞれの学年が、地域での実践活動を行ったことにより、地域の人・もの・ことへの関心が高まった。また、「ふるさと・歌浦」の将来について考えることもできた。このような学習を通して、ふるさとに関心をもち、ふるさとについての理解を深め、ふるさとを大切にしていこうという意欲が高まったと思われる。
- 多くの人たちとの関りから「本物」に触れる活動が充実した。「百聞は一見に如かず」と言うように、本物に出会い、見たり、体験したりすることで、子どもたちの興味・関心や情操面が高まり、様々な世代、立場の方への他者理解も深まった。人との出会いを通して、挨拶や関わり方等、コミュニケーションの取り方も身に付いてきた。
- 学習サポートティーチャーや読み語りボランティアとの関わりの中で、基礎的な学力や読書への関心が高まっただけでなく、地域の方のあいさつ運動も含め、地域の方からの見守られ感や安心感が高まった。言葉掛けやほめてもらうことで自己肯定感も高まった。
- 学力向上研修や標準学力テストの実施・分析を通して、本校の児童の課題が明確になり、課題に応じた指導を行うことができた。また、校内研究における国語の物語文の読み方に関する学習を通して、「国語の学習は好きですか」という質問に対して、肯定的な意見が6年生で7割近くも見られ、学習意欲の高まりが見られた。
- 学校評価の結果、「学校の指導方針に共感でき、特色ある教育活動に満足している。」という項目に関して【保護者】3.6、【地域関係者】3.8と非常に高く、学校だよりやホームページでの発信等を通して、特色ある学校づくりへの理解も高い。